

いま、本にふれる

どうして「いま、本にふれる」と題したのか。

「読書の秋」という言葉があることが作用したのはもちろんのことだが、ただ純粹に本にふれるキツカケを作りたいと思ったからである。

本にふれるだけで言えば、電子書籍もある。家にいながら、旧作・新作問わず、楽しむことができる。格段と本にふれやすくなって来たことには変わりない。

だけど、本にふれる中で、「本棚に並ぶ製本された本を探して



手に取る」というワクワク感はなかなか味わえないのではないだろうか。そして、目的の本に到達するまでの間に、「面白いタイトルの本だな」「おしゃれな装丁だな」だとか。意図していないタイミングでの偶然的な本との出会いができる。購入履歴などからオススメされることも良いが、生活のどこかにアナログな世界を残しているのも良いと思うわけで、今回は町内にある公民館図書室を取り上げます。